

カ タ リ ナ

学報

第56号



St. Catherine University

聖カタリナ大学 / 聖カタリナ大学短期大学部

2026. 6. 1



2026年度入学式
聖カタリナ大学短期大学部第61回
聖カタリナ大学第39回
聖カタリナ大学大学院第5回

入学式式辞

学長 坂 原 明



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
大学を代表し、皆さんの新たな門出を心よりお祝
いいたします。また、今日まで皆さんを支えてこ
られたご家族の皆様、謹んでお祝い申し上げます。
併せまして、ご多忙の中、この佳き日にご列
席くださいましたご来賓の皆様、厚く御礼申し
上げます。また、本日は、台湾の国際姉妹校から
留学生の方をお迎えすることができました。改め
て、ご入学を心からお祝いいたします。

さて、皆さんが本日、踏み出した一歩は、単な
る「進学」ではありません。それは、一生を支え
る大切な「価値観」と出会う旅の始まりです。こ
の旅を始めるにあたり、皆さんに覚えていただ
きたい言葉があります。それは、“Charity for your
neighbours”——「あなたの隣人を大切に」と
いう本学のスクール・モットーです。スクール・
モットーとは、その大学の教育の理念・目標を表
すとともに、学生の皆さんに、本学での学びを通
じて身につけていただきたい心の姿勢であり、

行動の規範となるものです。この“Charity for
your neighbours”という本学のスクール・モッ
トーを聞いて、皆さんはどのように感じられるで
しょうか。「良い言葉だ」と思う一方で、「自分
にはそんな余裕はない」「少し綺麗事すぎるの
ではないか」と感じられるかもしれません。

しかし、ここで言う「Charity(チャリティ)」とは、
単なる募金や一時的な親切を指すものではありません。
その語源はラテン語の「カリタス (Caritas)」、
つまり「惜しみない愛」を意味します。そして「隣
人」とは、気の合う友人だけではなく、あなたの
助けを必要としている人、あるいは、あなたとは
全く異なる考え方を持つ「他者」すべてを指して
います。

今、私たちが生きるこの世界は、大きな転換期
の渦中にあります。生成AIの急速な進化は、生
活を劇的に便利にする一方で、「真実」と「虚偽」
の境界を曖昧にし、人間独自の価値を問い直して
います。また、地球規模の気候変動や、依然とし

て続く国際的な紛争、経済的な分断など、混迷は深まるばかりです。こうした不確実な時代だからこそ、皆さんに求められるのは、情報の波に吞まれず本質を見極める「批判的知性」と、自分とは異なる背景を持つ他者を想う「想像力」です。世界を単なるデータとして捉えるのではなく、そこに生きる「隣人」の痛みを感じ、対話を試みる。その姿勢こそが、分断に橋を架け、未来を切り拓く確かな力となるのです。

大学で過ごす日々の中で、是非、この“Charity for your neighbours”という言葉の意味を、学問と実践を通して体験していただきたいと願っています。皆さんは、これから始まる大学生活の中で、壁にぶつかり、悩み、落ち込むこともあるかもしれません。しかし、そのような時こそ、共に過ごす仲間があなたの支えとなり、また、あなた自身も誰かにとって心強い支えになれることを忘れないでください。

ところで、皆さんはなぜ、大学に進学しようと思われたのでしょうか。資格を得るため、興味のある分野の知識を深めるため。それらもちろん立派な志です。しかし、本学が皆さんに提供したいのは、単なる情報の蓄積ではありません。学んだことを糧として、他者の幸せに貢献できる人間へと成長すること。そのプロセスにこそ、本学で

学ぶ真の価値があります。

本学で得られる学びは、多くの人を幸せにする力を持っています。自分の能力を自分一人の成功のためだけに使うのではなく、周囲のために役立てようとする時、皆さんの学びは、単なる「情報」から「世界を変える力」へと進化します。皆さんが本学で主体的に学び、他者と対話する中で育むその力こそが、社会に新風を吹き込み、未来を動かす確かな「希望」となります。

さて、最後にお伝えしたいのは、これからの時間の過ごし方です。学生生活は、学業以外にも多様な経験ができる貴重な時間です。新しい友人との出会い、サークル活動、旅行や短期留学などを通して見聞を広めてください。また、自由度が高まる分、目標を達成するためには、自分を律する強い意志が必要になることも心に留めておいてほしいと思います。

皆さんの未来は、これからの大学生活をどう過ごすかにかかっています。未来は、自らの手で切り拓くことができます。与えられたこの時間を充実したものにするため、努力を惜しまないでください。本学での日々が、多くの新しい「出会い」に満ち、皆さんのなかに豊かな知性と慈しみの心が育まれることを祈念いたしまして、私の式辞といたします。

大学公式LINE



※QRコードをスキャンするとLINEの友だちに追加されます。

大学公式Instagram



受験希望
の方



大学HP



保育学科
ブログ



●第66回中・四国保育学生研究大会に参加

11月29日(土)に岡山大学で開催された「第66回中・四国保育学生研究大会」に、保育学科学生2年の5名が参加しました。中・四国地方の32校、約900名の保育学生が岡山に集い、日頃の研究成果を発表しました。

本学は、「野菜で子育て支援～地域に広げる食育活動について～」というテーマで発表を行いました。具体的には、夏に実施した「親子料理教室」や10月の大学祭、11月に地域の集会室や畑で行った「収穫祭」など、学生自身が企画・運営した親子活動についてまとめて報告しました。他校の発表を聞く中で、新たな視点や気づきを得られ、互いに学び合える大変貴重な機会となりました。



●【地域貢献】第55回かざはや楽市に参加（学生ボランティアセンター）

12月7日(日)、北条地区まちづくり協議会が主催する「第55回かざはや楽市」に本学学生ボランティアセンターから4名が参加し、主に「かざはや楽市クイズ」と「フリーマーケット」の2つのプログラムで活動しました。「かざはや楽市クイズ」では、クイズ資料の設置や配布、抽選会の進行などを担当し、ご家族連れや子どもたち、イベントスタッフの皆さまと笑顔で交流しました。「フリーマーケット」では、商品の販売や呼び込みを行い、来場者の方々に楽しんでいただけるよう工夫しながら取り組みました。

学生たちは地域の皆さまとふれあいながら、ボランティア活動の楽しさを味わいました。また、地域の催しが多くの方々の尽力によって支えられていることを学びました。今後も学生ボランティアセンターは、地域の皆さまへの感謝を大切に、学生と地域がともに学び合える機会を大切にしていきたいと思います。



●「日本福祉教育・ボランティア学習学会 第31回えひめ大会」を開催

11月29日(土)・30日(日)の2日間、本学の坂原明学長を大会長とする「日本福祉教育・ボランティア学習学会 第31回えひめ大会」が、北条キャンパスにおいて開催されました。

全国各地から学会員、大学院生、大学生など212名の皆さまにご参加いただき、盛会のうちに全日程を終えることができました。大会では、前日企画、ランチセッション、総合シンポジウム、課題別研究、自由研究発表など多岐にわたる充実したプログラムが展開され、各会場で活発な議論と交流が行われました。



また、本学の学生ボランティアセンターの学生および保育士資格を有する学生、計11名が「おもてなし隊」として大会運営に協力しました。駅からの道案内、会場案内、託児対応などを誠実に務め、学生たちのきめ細やかな配慮と、温かみのある対応は、参加者の皆さまに好印象を与えていました。

さらに30日(日)には、カタリナ・ボランティアセンター運営委員会担当教員と学生ボランティアセンター4年生の有志が、「聖カタリナ大学学生ボランティアセンターの活動を通して―地域の新しい未来を担うセンターとしての協同実践―」と題したポスター発表を行いました。ブースに足を運んでくださった方々との交流を通じ、他大学のボランティアセンターの活動事例を学んだり、活動への具体的なご助言をいただいたりするなど、自分たちの活動について客観的に捉え、活動の振り返りと今後の改善につながる貴重な機会となりました。

多くの皆さまのお力添えにより、本大会を無事開催できましたことに心より感謝申し上げます。

●聖カタリナ大学と静修高級中學が教育に関する連携協定を締結

聖カタリナ大学は、12月12日(金)、台湾の静修高級中學(「高級中學」は日本の高校にあたります)と教育に関する連携協定を締結しました。本協定は、両校が共通のカトリックの精神に基づく教育理念を共有していることを基盤とし、今後の教育活動の連携をより一層深めることを目的としています。

静修高級中學で執り行われた締結式には、両校の関係者が出席し、本学の坂原明学長と静修高級中學の蔡英華校長が協定書への署名を行いました。本協定により、両校は教職員や学生・生徒の交流をはじめ、幅広い教育分野で協力関係を築いていきます。本学は、これらの取り組みを通して、静修高級中學の生徒の皆さんの進路意識や学びへの意欲の向上の支援を図ります。



今後は、カトリックの理念を共有する両校の特色を活かしながら、連携をさらに発展させていきます。

●参加3年目となる2025年度松山義士祭の義士行列に参加

12月14日(日)、看護学科の学生11名、教員1名が松山義士祭に参加しました。松山義士祭は、赤穂浪士討ち入りの12月14日に開催される、松山の師走を彩る伝統的な行事です。松山市駅キャンパス近隣の興聖寺を中心に行われ、義士に扮した参加者が末広町通りから市駅前までをパレードします。



本学看護学科からの参加は今年で3年目となります。継続的な参加を通じて、地域の皆さまから温かいお声がけをいただく場面も増え、大学と地域との相互交流が深まっていることを実感しています。

介護予防教室をはじめ寄付講座、大学祭など本学が開催したイベントへ本年度も多数の地域の方々にご参加いただきました。

看護学部では、このような地域行事や大学行事への継続的な取り組みを通して、地域の一員として学び関わる機会を大切にし、今後も地域とともに歩みながら、学生が学びを地域へ還元できる関係づくりを進めてまいります。

●第4回鍵盤楽器コンサートを開催

12月21日(日)、子どもたちに文化・芸術への関心を広げてもらおうと、地域の小中学生を対象に本学短期大学部の音楽ホールにて「鍵盤楽器コンサート」を開催しました。このイベントは(公財)松山市文化・スポーツ振興財団との連携協力協定に基づき開催しています。4回目となる今回は、本学保育学科の非常勤講師 大澤宣晃氏が楽曲の説明に加え、パイプオルガンの仕組みを解説しながら演奏しました。



後半は、本学の教職員、学生のサポートで様々な楽器の体験を行いました。最後に、会場の皆さんで、パイプオルガンの伴奏によるクリスマスソングと一緒に歌い、楽しい雰囲気の中、演奏会を終えることができました。

今後もこのような活動を通して、地域に貢献していきたいと思っています。

●看護学部看護学科 三木佳子教授定年退職記念講演会を開催

1月7日(水)、看護学部看護学科 三木佳子教授の定年退職記念講演会「ストーマとの出会いからケア実践創出までの道のり」が開催されました。

当日は、本学の学生・教職員をはじめ、卒業生など、多くの方々にご参加いただきました。講演では、ストーマをもつ患者へのケアに関して、これまで取り組まれてきた研究および実践の成果が紹介されました。三木先生らしいユーモアを交えた語り口で進められ、「看護は生活を保障し、望みを叶える支援である」という言葉で締めくくられました。

約5年半の間、多くの学生の指導に尽力され、学内のみならず皮膚・排泄ケア領域においても多大なご貢献をされてきた三木教授の、今後ますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。



●「精神保健福祉現場実習報告会」を開催

12月23日(火)「精神保健福祉現場実習報告会」を開催しました。

社会福祉学科の学生(2022年度入学生)が、精神保健福祉現場実習の集大成として、現場実習でのさまざまな経験を振り返り、考察したことをまとめ、発表しました。実習指導者の方々にもご来場いただき、活発な意見交換がなされ、貴重な助言をいただきました。



●現代人間学科 長尾由希子教授が令和7年度地方労働行政関係功労者表彰(厚生労働大臣表彰)を受賞

本学現代人間学科の長尾由希子教授が、「令和7年度地方労働行政関係功労者」として厚生労働省より感謝状を贈呈されました。

本表彰は、長尾教授が愛媛労働局の推薦を受け、地方労働審議会委員として長年にわたり尽力した功績が高く評価されたものです。

本学では、今後も長尾教授の活動をはじめ、大学全体として地域社会および国との連携を深め、さらなる社会貢献に取り組んでまいります。

●社会福祉を学ぶ学生が民生委員・児童委員との交流活動に参加

社会福祉を学ぶ本学の学生らが、地域福祉への理解を深める一環として、松山市民生児童委員協議会のご協力のもと、令和7年11月16日(日)および12月6日(土)の2日間にわたり交流活動に参加しました。

活動では、委員の方々から地域の子どもたちを見守る活動についてお話を伺ったほか、高齢者宅への訪問にも同行させていただきました。地域住民の方々と直接触れ合い、「顔の見える関係性」を築く貴重な機会となりました。今後も、地域社会と連携した教育活動を継続してまいります。



●第63回愛媛マラソンボランティアに参加（看護学科学生）

2月1日（日）、第63回愛媛マラソンに、本学看護学科学生24名が救護ボランティアとして参加しました。

学生たちはマラソンコース上で、ランナーの健康状態の観察と必要時に救命できるように、これまでに学修した赤十字救急法の知識と技術を復習して臨みました。

最強といわれる大寒波が到来し、参加者の体調が心配されましたが、大会当日は見事な快晴となり、みんなそれぞれの役割をとりながら、大声で声援も送り続けました。

今後も看護学生として、愛媛マラソンはじめ様々な活動へのボランティア参加を通して地域社会に貢献してまいります。



●愛媛マンダリンパイレーツ 窪田寛之投手が母校を訪問

2月9日（月）、独立リーグ・愛媛マンダリンパイレーツに所属する本学卒業生の窪田寛之投手が母校を訪問し、坂原学長と懇談を行いました。

懇談の中で窪田投手は、在学時代の思い出を振り返るとともに、プロ野球選手としてこれまで積み重ねてきた経験について語りました。

また、2026年度のシーズンに向けた目標や抱負についても触れ、「一試合一試合を大切にし、チームの勝利に貢献できるよう全力で臨みたい」と力強い決意を述べました。



学長からは、母校の卒業生としてプロの舞台で挑戦を続ける姿勢に敬意が示され、今後のさらなる飛躍への期待と激励の言葉が贈られました。

本学では、今回の母校訪問を通じて、卒業生の活躍を在学生の大きな励みとするとともに、今後も卒業生とのつながりを大切にした教育活動を推進してまいります。

●「ソーシャルワーク実習連絡会・報告会」を開催

2月7日（土）、北条キャンパスにおいて「ソーシャルワーク実習連絡会・報告会」を開催しました。社会福祉士を目指す学生らが、現場実習での様々な経験を自身の知識や技術と結びつけながら考察を深め、その成果を発表しました。当日は、実習指導者の方々にもご来場いただき、活発な意見交換が行われました。

今後も高等教育機関と実習現場が連携し、次代を担う社会福祉専門職の育成に向けて力を合わせてまいります。



●東温市が主催する事業にソーシャルワークを学ぶ学生が参加

2月24日(火)、東温市生活支援体制整備事業の住民を対象とした研修会が東温市総合保健福祉センターで開催されました。

本研修は地域内で生じる暮らしの中の困りごとの改善や、孤立しがちな高齢者の楽しみの場を住民の互助の力で開発することができるよう、担い手の発掘・養成を目的としたものです。現代人間学科ソーシャルワークコースの教授である釜野鉄平先生が講師を務めており、社会福祉士を目指す2年生の学生2名も参加しました。



地域の方のグループワークに学生も加わり、積極的に学生目線の意見を発表させていただいたほか、最後に行われた成果発表では、グループメンバーの後押しを受け、代表として発表の大役も務めさせていただきました。

今回はソーシャルワーク実習期間中につき2名のみの参加となりましたが、本コースでは地域福祉活動や学外学習に注力しています。今後も学生と教員が一体となり、積極的に地域へ飛び出していく予定です。

●現代人間学科入学予定者向け「スプリングセミナー」を開催

3月12日(木)、入学予定者を対象に、学修動機の形成および学生間の交流を目的とした「スプリングセミナー」を開催しました。

最初は緊張した面持ちで北条キャンパスに集まった皆さんでしたが、グループワークを通じて少しずつ緊張もほぐれ、会場には次第に明るい笑顔が広がりました。学生同士だけでなく、教職員とも言葉を交わし、互いに打ち解け合える貴重な時間となりました。



新生活を前に期待と不安が入り混じる時期ですが、このセミナーが「仲間とともに歩む第一歩」となれば幸いです。皆さんのご入学を、教職員一同心よりお待ちしております。

●介護福祉士国家試験において全員合格を継続達成！

本学社会福祉学科（2025年度より現代人間学科へ改組）は、第38回介護福祉士国家試験において、今年度も全員合格を達成いたしました。

本結果は、学生が日々の学修と実習に真摯に取り組んできた成果であるとともに、実習施設の皆様の専門的なご指導、ならびにご家族の皆様の支えがあってこそ得られたものです。

この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

本学は、今後も地域社会に貢献できる福祉専門職の育成に努めるとともに、合格した皆さんが、福祉専門職としての歩みを大切に重ねていかれることを心より期待しております。

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| ・合格基準点：64点（125点満点） | ・全国合格率：70.1%（前年度78.3%） |
| ・養成校合格率：58.8%（前年度66.7%） | ・本校合格率：100% |

●2025年度卒業証書・修了証書・学位記授与式を挙

3月16日(月)、2025年度聖カタリナ大学短期大学部・聖カタリナ大学・聖カタリナ大学大学院の卒業証書・学位記授与式を、松山市民会館において挙行了しました。

当日は厳かな雰囲気の中、卒業生・修了生がガウンと角帽を身にまとい、聖歌斉唱や聖書朗読が行われました。続いて、坂原学長から各学科の代表者に卒業証書・学位記が授与され、卒業生・修了生はそれぞれ新たな門出を迎えました。



式典終了後、卒業生・修了生は、これまでの学びと思い出を胸に、それぞれの未来へ向かってキャンパスを巣立っていきました。

卒業生・修了生の皆さん、ご卒業・ご修了おめでとうございます。

本学で培われた知識と経験を礎に、今後ますますご活躍されることを心よりお祈り申し上げます。

●本学留学生と現代人間学科教員が北条地区社会福祉協議会の研修会で講演

3月19日(木)、北条コミュニティセンターにて、社会福祉学科3年(当時)の台湾人留学生 オウ・シュエイジンさんと、現代人間学科の村上佳子准教授が北条地区社会福祉協議会の役員を対象に講演を行いました。



オウさんは「台湾と日本の高齢者福祉」をテーマに講演では、台湾の家族中心の介護文化について、自身の祖父母の介護経験を交えながら紹介しました。

また、日本と台湾それぞれの高齢者福祉の特徴や考え方の違いについても触れ、両国の良さを活かす多様なケアの形を目指していきたいと、今後の展望を語りました。

講演の後半には、村上准教授が「デンマークの高齢者福祉」について海外研修の際に撮影した写真を使って紹介しました。

講演後には参加者との質疑応答も行われ、台湾やデンマークの文化や福祉の考え方を手がかりに、北条における支え合いのあり方について考える貴重な機会となりました。

●第112回保健師国家試験・第115回看護師国家試験合格発表

3月24日(火)、厚生労働省より「第112回保健師国家試験」および「第115回看護師国家試験」の合格発表がございました。本学における今年度の試験結果について、以下の通りお知らせいたします。

【本学の新卒者合格実績】

●保健師：合格率80% ●看護師：合格率94.1%

*保健師の全国合格率 87.1% (新卒者合格率 89.9%)

*看護師の全国合格率 88.3% (新卒者合格率 94.1%)

本結果は、全員一丸となって最後まで国家試験対策に取り組んだ成果であり、4月から看護職としての一歩を歩み始めたところです。

多大なるご支援・ご指導を賜りました関係者ならびにご家族の皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

本学は今後も、地域に支えられ地域に貢献するあたたかな看護職の育成を通じて、地域社会に貢献してまいります。

●看護学部第2回卒業生による病院紹介

3月26日(木)、看護学部にて「第2回卒業生による病院紹介」を開催しました。本企画は卒業生と在學生を繋ぎ、就職活動の糧としてもらうことを目的としています。

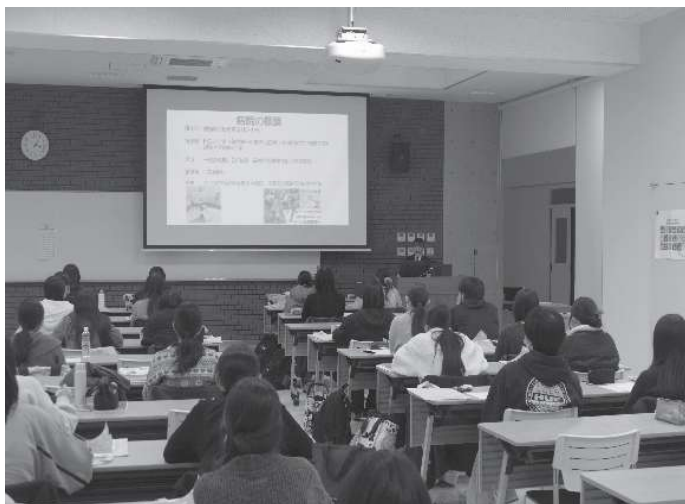
昨年5月2日(金)に開催した第1回が大変好評だったことを受け、各病院の看護部長様のご協力のもと、この度、継続開催の運びとなりました。

当日は、県内12病院から16名の卒業生(2～5期生)が来校。勤務先の特徴や働き方、教育体制からリフレッシュ方法まで、具体的に分かりやすく紹介していただきました。参加した在學生65名(1年生6名、2年生2名、3年生57名)は、数年後の自分を重ね合わせるように、熱心にメモを取りながら耳を傾けていました。

病院の代表として堂々と語る先輩の姿は、後輩たちの目にととても頼もしく映ったことでしょう。終了後の個別相談でも、先輩たちが気さくに応じてくださり、本学ならではの温かな絆が感じられる貴重なひとときとなりました。

卒業生の皆さん、お忙しいなか本当にありがとうございました。在學生の皆さんは、先輩からのメッセージを胸に、自分に合った進路を見つけていきましょう。

看護学科は今年、開設10年目を迎えました。これからも母校の絆を大切に、温かな看護職を輩出してまいります。



●2026年度看護学科カタリナウェルカムキャンパスを開催

本学では、新入生と在學生の交流や、新入生が有意義な学生生活を送るための一環として、「カタリナウェルカムキャンパス」を開催しています。看護学科は、4月9日(木)に開催しました。

在學生が主体となって企画、運営しました。新入生同士で楽しむゲームや、学年混合チームでのボール運びゲーム、新入生が在學生に相談・質問できるコミュニケーションカフェなどを行いました。短い時間でしたが、参加者全員が楽しく有意義な時間を過ごし、交流を深めました。



●松山市駅キャンパスにて介護予防教室を開催

4月16日(木)、看護学科3年生の老年看護学の授業の一環として、第3回介護予防教室を開催しました。

今回は新たに1町内が加わり、大学周辺の4町内より60歳代から90歳代までの31名の皆様にご参加いただきました。

学生は、身体機能や認知機能の維持・向上につながるよう、楽しさを取り入れたさまざまな企画を考案・準備してお待ちしていました。当日は、お花のクラフト制作をはじめ、座った状態でも楽しめるゴルフゲームや指先を使うゲームなど、多彩なプログラムを実施し、学生と参加者のみなさまとの交流によって笑顔あふれる時間となりました。



初めて参加された方からは、「とても楽しい企画がたくさんあって驚きました。来てよかったです」とのお声をいただきました。また、毎年参加してくださっている方からも、「これに来るためにも来年まで元気でおりますね」「毎年来ているのに、毎回違う企画で本当にすごい」といった嬉しい感想も寄せられました。本教室は、学生にとって地域で暮らす高齢者の方々への理解を深める貴重な学びと交流の場となっています。今後も地域の皆様とのつながりを大切にしながら、地域とともにある教育を推進してまいります。

●デートDVのセミナーを受講

看護学科では毎年1年生を対象にデートDVのセミナーを開講しています。今年度は、4月22日(水)2限目に、公益財団法人えひめ女性財団愛媛県男女共同参画センターの石丸世志先生を講師にお迎えし、デートDVとは何か、デートDVが生じる仕組み、身近な事例についてわかりやすく教えていただきました。



そして、一人ひとりが、DVの加害者にも被害者にもならないようにするための視点、互いに尊重し合える関係を築いていくためにはどうするか、助けが必要になった場合の方法を考える機会になりました。さらに、看護専門職としての対応（声掛けや寄り添い方）の具体的方法についても学ぶことができました。

●第38回社会福祉士・第28回精神保健福祉士国家試験合格発表

3月3日(火)、厚生労働省より「第38回社会福祉士国家試験」および「第28回精神保健福祉士国家試験」の合格発表が行われました。本学における今年度の試験結果について、以下の通りお知らせいたします。

【本学の新卒者合格実績】

●社会福祉士：合格率 88.0% ●精神保健福祉士：合格率 100% (全員合格)

*社会福祉士の全体の合格率60.7% (福祉系大学の新卒者合格率78.4%)

*精神保健福祉士の全体の合格率78.2% (保健福祉系大学の新卒者合格率85.4%)

合格した学生の皆さん、本当におめでとうございます。また、学生たちの学びを温かく見守ってくださったご家族の皆様、そして実習等で多大なるご指導を賜りました関係機関の皆様に、深く御礼申し上げます。

本学は今後も、質の高い福祉人材の育成を通じて、地域社会に貢献してまいります。

◆◆ 2025年度後期行事（2025.10.1～2026.3.31） ◆◆

月	日	曜	区	行 事
10	1	水	大短	教務委員会（松山市駅キャンパス）
	3	金	大	第2回愛媛銀行寄付講座「風早の塾」
	4	土	大	総合型入試
	6	月	大	研究倫理委員会
	7	火	大	判定入試・募集委員会（松山市駅キャンパス）
	8	水	大	理事長講話（北条キャンパス）
	10	金	大	全学教授会、人事委員会、学部長会議、学生生活委員会松山市駅キャンパス会議
	14	火	大	第3回愛媛銀行寄付講座「風早の塾」
	15	水	大	研究倫理委員会看護学科分会
	17	金	大	キリスト教研究所フォーラム、大学祭パイプオルガン演奏会実行委員会
	18	土	大	学長候補者推薦会議、奨学制度運営委員会
	20	月	大	理事長講話（松山市駅キャンパス）、健康スポーツ学科会議、看護学科会議、看護学科運営会議
	22	水	大	第4回愛媛銀行寄付講座「風早の塾」
	23	木	大	オープンキャンパス
	24	金	大	入試・募集委員会
	26	日	大	学生生活委員会北条キャンパス会議
	28	火	大	研究科委員会
	29	水	大	教務委員会、保育学科会議
	30	木	大	Dean's List表彰式（松山市駅キャンパス）
	31	金	大	大学祭（～10/26）
	1	土	大	オープンキャンパス with 大学祭（松山市駅キャンパス）
	2	日	大	Honor's List表彰式
	3	月	大	人間文化研究所フォーラム、図書館委員会・研究紀要編集部会
	4	火	大	人事委員会、Dean's List表彰式（北条キャンパス）
	5	水	大	教務委員会北条キャンパス会議
	6	木	大	理事会、第5回愛媛銀行寄付講座「風早の塾」
	7	金	大	スポーツ・レクリエーションフェスティバル in 風早
11	1	土	大	教務委員会松山市駅キャンパス会議
	2	日	大	教授会
	3	月	大	会計監査（中間）（～11/7）、国際交流委員会、衛生委員会
	4	火	大	第6回愛媛銀行寄付講座「風早の塾」
	5	水	大	キリスト教研究所フォーラム
	6	木	大	教学マネジメント委員会
	7	金	大	全学教授会、選考教授会、人事委員会、学生生活委員会松山市駅キャンパス会議
	8	土	大	第7回愛媛銀行寄付講座「風早の塾」
	9	日	大	研究倫理委員会看護学科分会
	10	月	大	推薦入試
	11	火	大	推薦入試、判定入試・募集委員会
	12	水	大	判定入試・募集委員会（北条キャンパス）
	13	木	大	健康社会学部教授会
	14	金	大	奨学制度運営委員会、遠隔地支援制度部会
	15	土	大	看護学科会議、看護学科運営会議
	16	日	大	保育学科会議
	17	月	大	人事委員会
	18	火	大	推薦入試
	19	水	大	人間文化研究所フォーラム
	20	木	大	判定入試・募集委員会（松山市駅キャンパス）、研究科委員会
12	1	金	大	看護学部教授会
	2	土	大	第8回愛媛銀行寄付講座「風早の塾」
	3	日	大	評議員会・理事会
	4	月	大	人事委員会
	5	火	大	広報委員会
	6	水	大	研究倫理委員会、教務委員会松山市駅キャンパス会議
	7	木	大	教授会、人事教授会
	8	金	大	キリスト教研究所フォーラム
	9	土	大	学長候補者推薦会議
	10	日	大	全学教授会、選考教授会、学部長会議、人事委員会、学生生活委員会松山市駅キャンパス会議
	11	月	大	研究倫理委員会看護学科分会
	12	火	大	オープンキャンパス
	13	水	大	入試・募集委員会
	14	木	大	健康スポーツ学科会議、看護学科会議、看護学科運営会議、人事委員会
	15	金	大	保育学科会議
2026	1	土	大	学内クリスマス、理事会、人間文化研究所フォーラム、FD委員会
	2	日	大	推薦入試
	3	月	大	判定入試・募集委員会（北条キャンパス）
	4	火	大	判定入試・募集委員会

月	日	曜	区	行 事
12	23	火	大	冬季休業開始、クリスマス・オープンキャンパス、奨学制度運営委員会、遠隔地支援制度部会
	24	水	大	健康社会学部教授会、選考教授会、人事委員会、精神保健福祉現場実習報告会・連絡会、教職課科委員会
	25	木	大	教授会
	26	金	大	大学評価委員会
	27	土	大	冬季休業終了、教学マネジメント委員会
	28	日	大	全学教授会、選考教授会
	29	月	大	教授会
	30	火	大	財務委員会
	31	水	大	教務委員会松山市駅キャンパス会議
	1	木	大	学生生活委員会
	2	金	大	研究倫理委員会看護学科分会
	3	土	大	キリスト教研究所フォーラム
	4	日	大	将来計画委員会、国際交流委員会
	5	月	大	学部長会議、学生委員会松山市駅キャンパス会議
	6	火	大	人間文化研究所フォーラム、奨学制度運営委員会
1	7	水	大	看護学科運営会議、看護学科会議
	8	木	大	保育学科会議
	9	金	大	人事委員会
	10	土	大	選考教授会、研究科委員会
	11	日	大	評議員会・理事会
	12	月	大	一般入試
	13	火	大	一般入試
	14	水	大	判定入試・募集委員会（北条キャンパス）、教務委員会松山市駅キャンパス会議
	15	木	大	教授会、大学評価委員会、入試・募集委員会
	16	金	大	判定入試・募集委員会（松山市駅キャンパス）
	17	土	大	ソーシャルワーク実習連絡会・報告会
	18	日	大	第三者評価委員会、将来計画委員会、キリスト教研究所フォーラム
	19	月	大	全学教授会、人事委員会、学部長会議
	20	火	大	現代人間学科スプリングセミナー、学生生活委員会（松山市駅キャンパス）
2	21	水	大	研究倫理委員会看護学科分会
	22	木	大	保育学科実習懇談会
	23	金	大	一般入試
	24	土	大	学長と学生の懇談会（北条キャンパス）
	25	日	大	教務委員会、判定入試・募集委員会（松山市駅キャンパス）
	26	月	大	学長と学生の懇談会（松山市駅キャンパス）、看護学科運営会議、看護学科会議、健康スポーツ学科会議、看護学部教授会
	27	火	大	保育学科会議
	28	水	大	全学教授会、選考教授会、現代人間学科会議
	29	木	大	教務委員会
	30	金	大	教授会
	31	土	大	入試・募集委員会
3	1	日	大	研究科委員会
	2	月	大	理事会、I R委員会
	3	火	大	後援会役員会
	4	水	大	遠隔地支援制度部会
	5	木	大	教務委員会（松山市駅キャンパス）
	6	金	大	教授会
	7	土	大	保育学科スプリングセミナー
	8	日	大	オープンキャンパス（松山市駅キャンパス）
	9	月	大	人事委員会
	10	火	大	一般入試
	11	水	大	判定入試・募集委員会
	12	木	大	臨時研究科委員会、教学マネジメント委員会
	13	金	大	全学教授会、現代人間学科スプリングセミナー、判定入試・募集委員会、学部長会議、学生生活委員会（松山市駅キャンパス）
	14	土	大	教授会、人事教授会
	15	日	大	看護学部教授会
4	16	月	大	卒業式
	17	火	大	看護学科運営会議、看護学科会議、健康スポーツ学科会議
	18	水	大	オープンキャンパス
	19	木	大	教職課程委員会
	20	金	大	教務委員会（松山市駅キャンパス）
	21	土	大	奨学制度運営委員会、入試・募集委員会
	22	日	大	研究科委員会
	23	月	大	評議員会・理事会
5	24	火	大	保育学科会議
	25	水	大	春季休業終了
	26	木	大	

◆◇ 2025年度卒業生就職等進路状況 ◇◆

2026年5月1日現在

1. 業種別状況

【聖カタリナ大学】

業 種 / 学 科		就 職 者 数				
		社会福祉	人間社会	健康スポーツ	看 護	合 計
企 業	建設／製造	1	12	16	0	29
	情報通信／運輸, 郵便	1	3	3	0	7
	卸売, 小売	5	11	2	0	18
	金融, 保険	0	0	3	0	3
	サービス(宿泊, 複合他)	1	5	2	0	8
	その他(電気, 不動産他)	1	5	6	0	12
	教育, 学習支援	0	0	10	0	10
医療, 福祉	医療, 保健衛生(病院他)	4	0	0	79	83
	児童福祉施設	1	2	0	0	3
	老人福祉施設	5	0	0	0	5
	障害者福祉施設	3	1	0	0	4
	その他(社会福祉協議会他)	9	1	0	0	10
公 務	国家公務員	0	0	1	0	1
	地方公務員	6	1	1	2	10

【聖カタリナ大学短期大学部】

業 種 / 学 科		就職者数
		保 育
教 育 , 学 習 支 援	公立幼稚園	0
	私立幼稚園	7
	幼保連携型認定こども園	5
	その他の教育, 学習支援業	0
児 童 福 祉	公立保育所	3
	私立保育所・託児所	12
	児童養護施設	0
	その他の児童福祉事業	2
医 療, 福 祉	病院	0
	その他の福祉, 介護事業	1
企 業	卸売, 小売	0
	宿泊, 飲食サービス	0
	金融, 保険	0
	その他(製造, サービス他)	4
公 務	国家公務員	0
	地方公務員	0

就 職 者 数		37	41	44	81	203
	(県 内)	(29)	(29)	(28)	(68)	154
	(県 外)	(8)	(12)	(16)	(13)	49
卒業生内訳	就職希望者数	38	48	48	81	215
	就職率	97.4%	85.4%	91.7%	100.0%	94.4%
	(県内就職率)	(78.4%)	(70.7%)	(63.6%)	(84.0%)	(75.9%)
	進学者数	0	2	0	3	5
	家事・その他	1	8	1	3	13
	卒業者数	39	58	49	87	233

就 職 者 数		34
	(県 内)	(29)
	(県 外)	(5)
卒業生内訳	就職希望者数	36
	就職率	94.4%
	(県内就職率)	(85.3%)
	進学者数	2
	家事・その他	2
	卒業者数	40

2. 職種別状況

【聖カタリナ大学】

職 種 / 学 科		就 職 者 数				
		社会福祉	人間社会	健康スポーツ	看 護	合 計
医療ソーシャルワーカー (M S W)		2	0	0	0	2
精神科ソーシャルワーカー (P S W)		1	0	0	0	1
相談員 (社会福祉主事他)		6	0	0	0	6
支援員 (知的・身障・児童他)		4	2	0	0	6
介護福祉士, 介護職		9	2	0	0	11
その他の福祉専門職(社会福祉士他)		3	0	0	0	3
看護師・保健師		0	0	0	81	81
教員		0	0	9	0	9
事務		2	6	4	0	12
販売, 営業		7	16	16	0	39
インストラクター・実践指導者他		0	0	2	0	2
その他 (サービス, 保安, 生産他)		3	15	13	0	31
合 計		37	41	44	81	203

【聖カタリナ大学短期大学部】

職 種 / 学 科		就職者数
		保 育
幼稚園教諭		13
保育士		15
その他の教員		0
社会福祉専門職業(児童厚生員含む), 介護サービス職業		2
事務		1
販売		0
その他 (サービス職業, 生産工程他)		3
合 計		34
(保育専門職への就職率)		(88.2%)

◆◇ 2025年度教授会議題（後期） ◇◆

【全学教授会議題】

2025年10月8日 第7回

- 2026（令和8）年度現代人間学科・健康スポーツ学科総合型
1. 選抜合格者選考について
- 2026（令和8）年度社会福祉学科第3年次編入学推薦選抜（提
携校Ⅰ期）合格者選考について
- 2026（令和8）年度看護学科総合型選抜合格者選考について
- 退学について
- 除籍について
- 聖カタリナ大学研究倫理規程の一部改正について

2025年11月12日 第8回

- 退学について
- 休学について
- 復籍について
- 学年暦について
- 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部ハラスメントの
防止等に関する規程の一部改正について
- 看護学部長選挙管理委員会委員の選出について

2025年12月10日 第9回

- 学長賞表彰者について

2026年1月7日 第10回

- 聖カタリナ大学履修規程の一部改正について

2026年2月10日 第11回

- 2026（令和8）年度現代人間学科・健康スポーツ学科一般選
抜（A日程）合格者選考について
- 2026（令和8）年度現代人間学科・健康スポーツ学科共通テ
スト利用選抜（前期）合格者選考について
- 2026（令和8）年度看護学科試験選抜（A日程）合格者選考
について
- 退学について
- 休学について
- 聖カタリナ大学学則の一部改正について
- 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部における公的研
究費の運営及び管理並びに研究活動上の不正行為の防止及び
対応に関する規程の改訂について

2026年2月19日 第12回

- 卒業判定について

2026年3月12日 第13回

- 2026（令和8）年度現代人間学科一般選抜（C日程）合格者
選考について
- 2026（令和8）年度現代人間学科・健康スポーツ学科共通テ
スト利用選抜（後期）合格者選考について
- 聖カタリナ大学履修規程の一部改正について
- 卒業の認定について
- 進級判定について（社会福祉学科・人間社会学科・健康ス
ポーツ学科）
- 進級判定について（看護学科）
- 復学について
- 退学について
- 休学について
- 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部研究倫理規程に
ついて
- 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部研究倫理審査委
員会運営規程について

【健康社会学部教授会議題】

2025年11月18日 第1回

- 2026（令和8）年度現代人間学科・健康スポーツ学科指定校
推薦選抜（前期）合格者選考について
- 2026（令和8）年度現代人間学科専願推薦選抜合格者選考に
ついて
- 2026（令和8）年度現代人間学科・健康スポーツ学科スポー
ツ推薦選抜（Ⅰ期）合格者選考について
- 2026（令和8）年度現代人間学科外国人留学生特別選抜（指
定校推薦）合格者選考について

2025年12月23日 第2回

【看護学部教授会議題】

2025年11月27日 第1回

- 2026（令和8）年度看護学科指定校推薦選抜合格者選考につ
いて
- 2026（令和8）年度看護学科公募制推薦選抜合格者選考につ
いて
- 2026（令和8）年度看護学科科学園特別推薦選抜合格者選考に
ついて
- 2026（令和8）年度看護学科社会人特別選抜合格者選考につ
いて

2026年2月18日 第2回

- 2026（令和8）年度共通テストプラス選抜（A日程）合格者
選考について

2026年3月13日 第3回

- 2026（令和8）年度試験選抜（B日程）合格者選考について
- 2026（令和8）年度共通テストプラス選抜（B日程）合格者
選考について

【聖カタリナ大学短期大学部教授会議題】

2025年10月1日 第7回

- 2026（令和8）年度総合型選抜（Ⅰ期）合格者選考について
- 除籍について
- 卒業認定・学位授与に関する方針、及び学習成果の改正につ
いて

2025年11月5日 第8回

- 学年暦について
- 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部ハラスメントの
防止等に関する規程の一部改正について

2025年11月18日 第9回

- 2026（令和8）年度指定校推薦選抜（前期）合格者選考につ
いて
- 2026（令和8）年度専願推薦選抜合格者選考について

2025年12月3日 第10回

- 学長賞表彰者について

2025年12月23日 第11回

- 2026（令和8）年度指定校推薦選抜（後期）合格者選考につ
いて
- 2026（令和8）年度総合型選抜（Ⅱ期）合格者選考について

2026年1月7日 第12回

※ 報告・連絡事項のみ

2026年2月4日 第13回

- 2026（令和8）年度一般選抜（A日程）合格者選考について
- 2026（令和8）年度共通テスト利用選抜（前期）合格者選考
について
- 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部における公的研
究費の運営及び管理並びに研究活動上の不正行為の防止及び
対応に関する規程の改訂について

2026年2月20日 第14回

- 卒業判定について

2026年3月4日 第15回

- 卒業の認定について
- 除籍について
- 退学について
- 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部研究倫理規程に
ついて
- 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部研究倫理審査委
員会運営規程について

2026年3月12日 第16回

- 2026（令和8）年度一般選抜（C日程）合格者選考について
- 2026（令和8）年度社会人特別選抜（Ⅱ期）合格者選考につ
いて
- 卒業の認定について

◆◆ 学校法人聖カタリナ学園2025年度決算概要 ◆◆

■ 1. 貸借対照表

貸借対照表は、本年度末（令和8年3月31日）において、資産の部は154億89百万円、負債の部は26億29百万円、純資産の部（正味財産）は128億6千万円（基本金203億62百万円と繰越収支差額△75億1百万円の合計額）となりました。

なお、本年度末（令和8年3月31日）における減価償却累計額は、85億82百万円となっております。

■貸借対照表：一定時点（本学は3月末現在）の資産、負債、純資産（基本金・繰越収支差額）の内容及び在り高を明示し、財産の状態を表します。

■ 2. 事業活動収支決算

事業活動収支決算は、事業活動収入が41億83百万円（予算比+108百万円）、事業活動支出が45億29百万円（予算比+15百万円）となり、基本金組入前当年度収支差額は△3億46百万円（予算比+93百万円）となりました。同差額より基本金を組み入れた結果、当年度収支差額は△4億96百万円（予算比+239百万円）となり、翌年度繰越収支差額は△75億1百万円（予算比+239百万円）となりました。

■事業活動収支計算書：当該会計年度の事業活動収入（学校の負債とならない収入）及び事業活動支出（現預金の支出を伴わない減価償却額や退職給与引当金繰入額などを含む）の内容を表すとともに、基本金組入前及び基本金組入後の収支均衡状態を明らかにします。一般企業会計の「損益計算書」に当たります（右表は総括様式）。

■ 3. 資金収支決算

資金収支決算は、資金収入が40億71百万円（予算比△86百万円）、資金支出が43億61百万円（予算比+10百万円）となりました。結果、収支差額△2億90百万円に前年度繰越支払資金18億70百万円を加算し、翌年度繰越支払資金は15億80百万円となりました。

■資金収支計算書：当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度の支払資金（現金&いつでも引き出すことができる預貯金）の収入及び支出の期末を表します。

（注）表中数字の単位は、「百万円」です。百万円未満は四捨五入して記載しています。

科 目	本年度末 (a)	前年度末 (b)	増 減 (a)-(b)
資産の部			
固定資産	13,602	13,676	△74
流動資産	1,888	2,123	△235
資産の部合計	15,489	15,799	△309
負債の部			
固定負債	1,811	1,909	△98
流動負債	818	684	135
負債の部合計	2,629	2,592	36
純資産の部			
基本金	20,362	20,212	150
繰越収支差額	△7,501	△7,006	1
純資産の部合計	12,860	13,206	△346
負債及び純資産の部合計	15,489	15,799	△309

科 目	予 算 (a)	決 算 (b)	差 異 (b)-(a)
事業活動収入計 ①	4,075	4,183	108
事業活動支出計 ②	4,514	4,529	15
基本金組入前当年度収支差額 ①-②	△439	△346	93
基本金組入額合計	△296	△150	146
当年度収支差額	△734	△496	239
前年度繰越収支差額	△7,006	△7,006	—
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△7,740	△7,501	239

科 目		予 算 (a)	決 算 (b)	差 異 (b)-(a)
前年度繰越支払資金		1,870	1,870	—
当年度	資 金 収 入	4,157	4,071	△86
	資 金 支 出	4,351	4,361	10
	収 支 差 額	△194	△290	△96
翌年度繰越支払資金		1,675	1,580	△96

* 学校法人会計基準について * * * * *
学校法人は、一般の事業法人とは異なり、利益の獲得を目的とする組織ではありません。教育・研究活動を通じて学生・生徒を育成するとともに、社会の発展に貢献するという重要な使命を担う、社会性・公共性の高い存在です。しかしながら、「経営」という視点を欠いたまま過大な設備投資や場当たりの運営を続ければ、収入と支出の均衡が崩れ、経営基盤の健全性を損ない、場合によっては法人の存続にも影響を及ぼしかねません。このような事態を防ぐため、学校法人の財政状況や経営実態を会計面から適時かつ的確に把握できるよう、一定の会計処理ルールとして昭和46年に文部省令第18号「学校法人会計基準」が制定されました。その後、私立学校法の一部を改正する法律（令和5年法律第21号）の施行により、従来は補助金の適正な配分を主な目的として私立学校振興助成法に位置付けられていた「学校法人会計基準」は、ガバナンスの強化とステークホルダーへの情報開示の充実を目的として、私立学校法に位置付けられることとなりました。これに伴い、「学校法人会計基準の一部を改正する省令（令和6年文部科学省令第28号）」及び「私立学校振興助成法施行規則（令和6年文部科学省令第29号）」が令和6年9月30日に公布され、令和7年4月1日から施行されています。この改正により、令和7年度以降の予算及び決算から新たな会計基準が適用されています。本年度は、学校法人会計基準の改正により引当金の計上基準が明確化されたことを受け、当年度から賞与引当金を計上しています。この結果、従来の会計処理方法と比較して、教育活動収支差額及び経常収支差額はそれぞれ6百万円減少し、基本金組入前当年度収支差額は147百万円減少しています。 * * * * *

◆◆ 人 事 ◆◆

【新規採用】
《2025年11月1日付け》

会計課
技術職員（守 衛）（非） 木原 敬吉

《2025年12月31日付け》

【退職】
（北条キャンパス）

会計課
主任 大堀 開生

学生支援課
事務職員（養 護）（非） 魚本 記代

《2026年1月1日付け》
【配置換え】

会計課
主任 鎌田 崇菜

《2026年3月31日付け》

【退職】
（北条キャンパス）

健康社会学部
教授 大久保 元正

准教授 福留 広大

助教 島村 真理子

助教 時岡 拓磨

保育学科
講師 戸井 和彦

事務局長 武知 浩二

兼事務部局長
会計課 技術職員（守 衛）（非） 中屋 健二

技術職員（守 衛）（非） 後藤 安正

（松山市駅キャンパス）

看護学部

教授 梶原 恭子

教授 三木 佳子

准教授 永易 裕子

准教授 白柿 綾

実習助手（非） 長尾 敏江

《2026年4月1日付け》

【新規採用】
（北条キャンパス）

健康社会学部
教授 秋山 昌江

教授 倉 鍾弼

助教 武内 保

会計課

技術職員（守 衛）（非） 光宗 文彦

技術職員（守 衛）（非） 松田 洋佳

（松山市駅キャンパス）

看護学部

教授 篠原 好江

教授 秋山 智

准教授 山本 陽子

看護学科事務部局

参与（非） 武知 浩二

実習助手（非） 森貞 由美

（16Pへ続く）

【昇任】 (北条キャンパス)		入試課 主任 ヘンスリー 美絵	
保育学科		法人事務局	
教授	仲野 由香利	主任	清光 由良
事務局長	新名 敏弘	(松山市駅キャンパス)	
総務課		看護学部	
課長	中武 勇人	准教授	庄野 亜矢子
会計課		准教授	西山 里枝
課長	重松 映美	講師	上田 裕子
係長	鎌田 聖菜	講師	今井 江里

【配置換え】	
会計課	
専門員	池田 哲
総務課	
事務職員	渡辺 綺華

《2026年5月1日付け》	
【新規採用】	
(北条キャンパス)	
教務課	
事務職員(非)	金橋 知敏千
(松山市駅キャンパス)	
看護学部	
実習助手(非)	白石 綾香

◆◇ 研究室探訪 ◇◇

聖カタリナ大学

健康スポーツ学科 助教 乗松 柚衣

健康スポーツ学科乗松研究室では、「子ども×スポーツ」をキーワードに、運動を通した「成長」や「繋がり」をテーマとして、学生主体の実践活動に取り組んでいます。授業やゼミで学んだ知識を現場で生かしながら、子どもへの理解を深めるとともに、学生自身の主体性や実践力の育成につながる活動を展開しています。今回は、これまでにゼミ生と共に企画・運営したイベントをご紹介します。

<秋の北条大運動会>

北条地区の小学生を対象に、学校の枠を越えて子ども同士が交流すること、そして運動の楽しさを感じてもらうことを目的として実施しました。学生たちは種目の企画から当日の運営までを担当し、子どもたち一人ひとりの様子に目を向けながら関わりました。活動を通して、地域の中でスポーツが果たす役割について考える機会にもなっています。



<聖カタリナ学園100周年記念 第1回附属幼稚園マラソン大会>

聖カタリナ学園100周年記念事業として実施された、附属幼稚園初のマラソン大会を企画しました。本大会は、持久力の向上や最後までやり遂げる経験を積むことを目的として、附属幼稚園の先生方と協働して作りあげたものです。ゼミ生と有志学生（全20名）が中心となり、当日の会場整備や大会運営を担当しました。マラソン練習では、しんどさから立ち止まったり涙を見せたりする園児もいましたが、本番では全員が自分の力で最後まで走り切ることが出来ました。子どもたちが最後まで挑戦する姿は、学生にとって大きな印象を残すものであり、幼児期

における運動経験の大切さを実感するとともに、子どもたちの挑戦を支える環境づくりの重要性を学ぶ機会となりました。



<健スポ大運動会>

学年を越えた縦と横のつながりをつくりながら、スポーツを通して大学生活の思い出を深めることを目的として実施しました。当日は約50名の学生が参加し、競技だけでなく応援や交流の時間も含めて、学科全体が一体となる貴重な機会となりました。学生が主体となって企画を形にする経験は、大きな達成感と自信につながっています。



乗松研究室では、こうした実践的な活動を通して、子どもとスポーツをつなぐ力を育てるとともに、人と人との関係を大切にできる人材の育成を目指しています。これからも学園や地域との連携を大切にししながら、学生とともに新しい挑戦を続けていきたいと考えています。

聖カタリナ大学・短期大学部学報
〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地
TEL. 089-993-0702(代)
<https://www.catherine.ac.jp>
編集・発行
広報委員会
kouhou@catherine.ac.jp